

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立城陽高等学校 】

1 実践テーマ	【 III・IV 】
2 実施対象者	全校生徒（934名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（保健体育科）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（人権教育）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピック大会や、アーチェリー競技についての興味関心を高めつつ、障がいがありながらもアスリートとして活動する人から勇気をもらう。</li> <li>・目標を設定し、継続して努力することの大切さを学び、自己の夢や進路決定に生かす。</li> </ul>
5 取組内容	<p>(1) 事前学習…人権学習として実施</p> <p>1年生 11月15日 「障害者理解に関する講演（小林春彦氏）」 …障がい者に対する理解を深める。</p> <p>2年生 6月14日「在日外国人差別に関する講演（三木幸美氏）」 …国際理解に対する理解を深める。</p> <p>3年生 10月25日「様々な差別について（5人のパネラー）」 …多様性に対する理解を深める。</p> <p>(2) 講演 上山友裕氏による 12月20日 2016年リオパラリンピック7位入賞の上山友裕氏による講演。</p> <p>①題名 「2016 リオから2020 東京へ」</p>



②内容

- 夢と目標の違いについて
- 目標を達成するためには
- どん底から切り替えた方法 等

③実演 上山氏と本校教員による 12月20日

上山氏と本校教員による実演をグラウンドで行った。初心者の教員が20mを射ち、その後上山氏に70mを射っていただいた。



20mでの実演



70mでの実演

	<p>(3) 事後学習…当日アンケート及び保健体育科で実施 1、2年生保健及び3年生体育（理論） 「オリンピック・パラリンピックについて」</p>
6 主な成果	<p>上山氏による講演は好評で、アンケートで「よくなかった」を選択する生徒は全校生徒のうち、2名だけだった。生徒の聴講態度を見ていても、顔を上げて話を聞いている生徒が多かった。また、講演後の質問も積極的に手を挙げる生徒がいた。</p> <p>講演後の実演は昼休みに行ったため、自由観覧としていたが、多くの生徒がグラウンドで見学をしていた。実演後の写真撮影についても、上山氏が快く引き受けてくださり、和やかな雰囲気となった。</p> <p>また上山氏の呼びかけにより、上山氏の Twitter をフォローする生徒がおり、パラリンピック選手を身近な存在に感じているようだった。</p> <p>生徒のアンケートより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックに出場するような選手でも、心がけていることは日々の努力の積み重ねで、その努力の差が大きな結果につながるのだなと感じた。</li> <li>・何事にも、やろうと変わろうとした結果に満足せず、しっかり反省をしようと思いました。</li> <li>・何かを始めるきっかけというのは普段生活していて、どこにあるのか分からないので、その時を大切にしていきたい。</li> <li>・やっぱり挫折を味わうのは大切なことだと思った。</li> <li>・僕も今すごく悔しい思いをしているので、「変わらないやつは勝てない」という言葉を胸にとめ、何事にも一生懸命に頑張ろうと思いました。</li> </ul>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・70mの遠さ、アーチェリーの難しさや楽しさを伝えるため、最初は初心者の教員が20mで実演し、その後上山氏に70mを射ってもらった点。</li> <li>・競技用の的では分かりにくいため、分かりやすいよう風船を的にして行った点。</li> </ul>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストを呼んで講演していただく今回のようなスタイルだと、次年度以降に継続して実施することが難しい。</li> <li>・年間行事が増えてしまい、教員の負担が大きい。この事業そのものは素晴らしいので継続したいが、その代わりに、何か行事を削るなどの対策が必要である。</li> <li>・実演時に使用した畳や畳台などの備品は本校にないものだったので、菟道高校からお借りしてきた。今回は特に問題無かったが、何かあった時には保証などの問題が出てくるかもしれない。</li> </ul>
9 来年度以降の実施予定	未定